

白山火山噴火活動調査報告書

1991

石川県白山自然保護センター

発刊にあたって

白山は周知のごとく第四紀に誕生した火山です。白山地域で火山活動が開始されたのは今から30～40万年前で、当時の活動中心は現在の山頂とは異なるところにありました。現在の山頂部を中心に活動したのが今から数万年前で、その活動は有史時代まで続きます。白山火山は現在噴火の兆候はみられませんが、有史時代の活動記録が10あまり知られており、生きている火山といえます。

昭和63年度から平成2年度にかけての3年間、白山自然保護センターを中心に”白山火山噴火活動調査”を行ってきました。火山灰層・古文書の記録・重力・磁力・地震などの面から白山火山の特徴を明らかにしようというものです。本報告書は、当事業の研究成果をまとめたものです。

本調査に際して、金沢大学名誉教授の山崎正男氏、金沢大学の守屋以智雄・河野芳輝・長尾年恭の諸先生方、石川県立小松高校の安田誠二氏、富山大学大学院生（当時）の加藤隆司氏、並びに金沢大学学生（当時）の高柳一男・東田進也氏のご協力をいただきました。深く感謝するしだいです。

平成3年2月

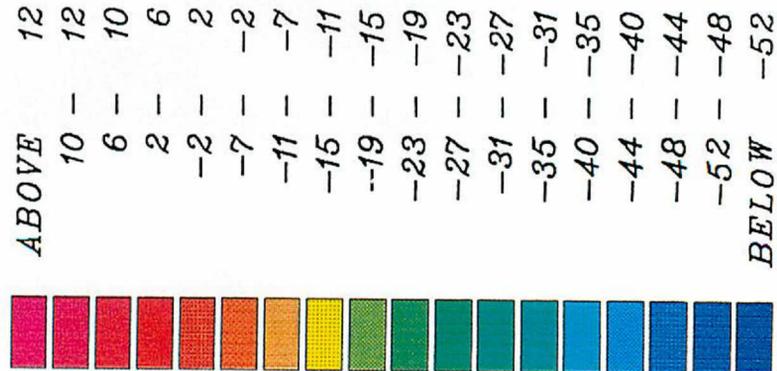
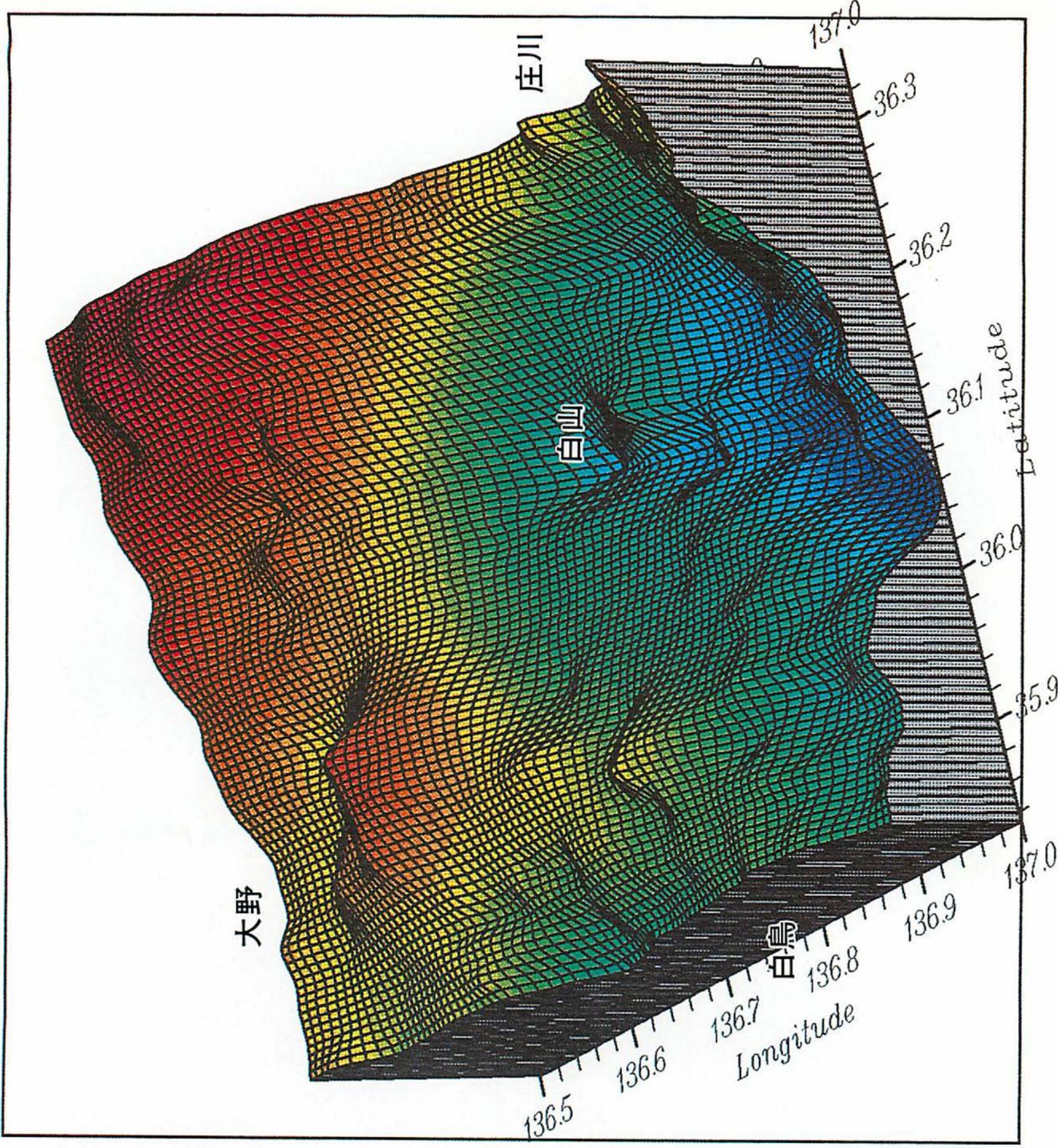
石川県環境部長 齊藤晴彦



白山山頂部（石川県県民課提供）

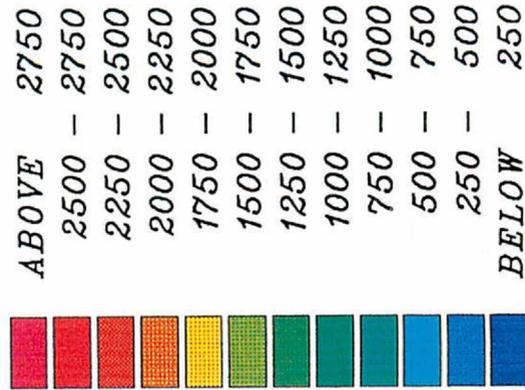
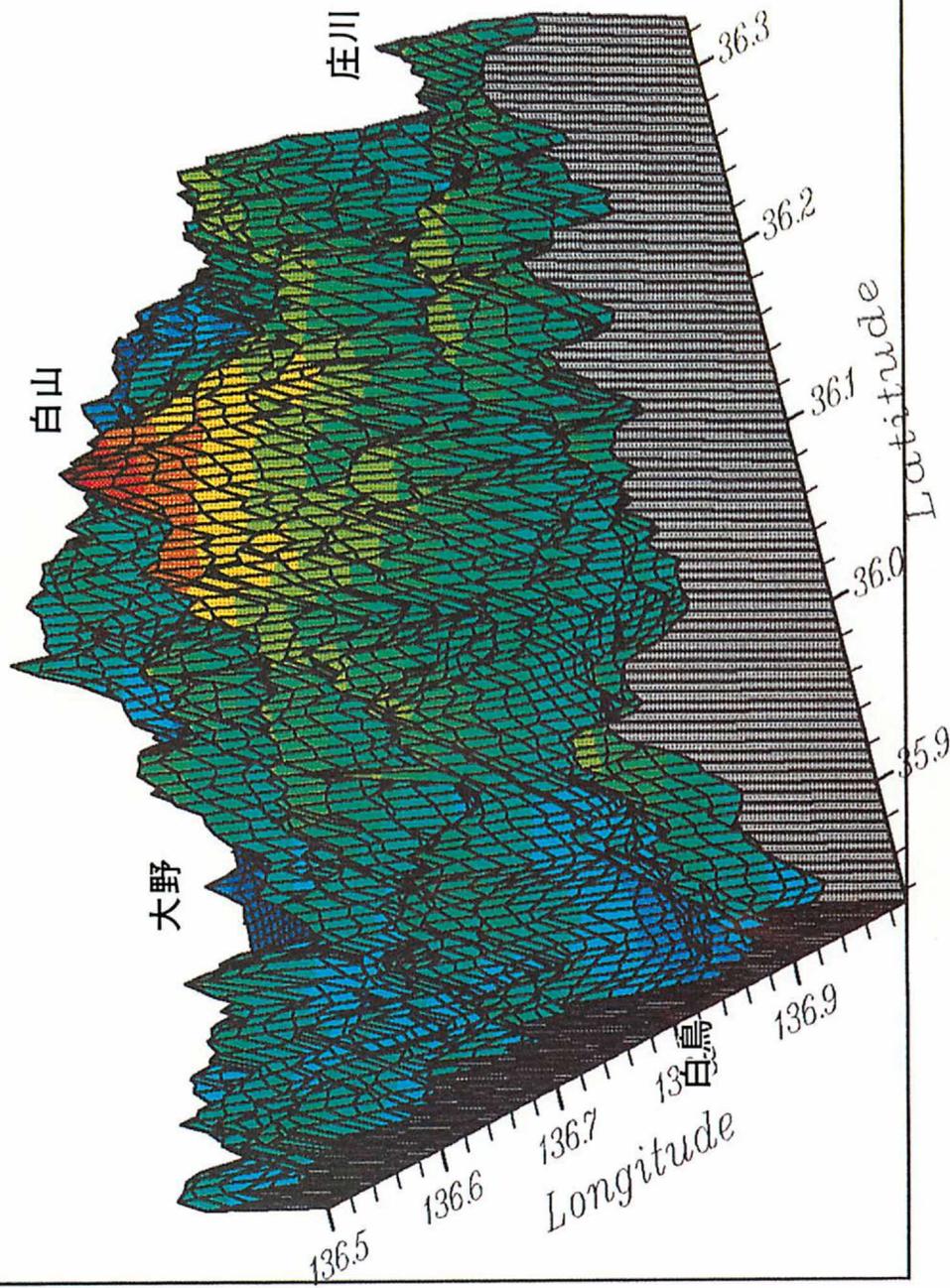
白山周辺のブーゲ異常 (立体図)

白山の東側にある強い負の重力異常の「溝」を通して「重力異常の白山」を見ている。この図では、白山は「谷ぞこ」に見える。図の右上に見える「山」は日本海へ向う重力異常の増加を表わしている。投影方法は「白山周辺の地形」と同じ。数値の単位はミリガル。



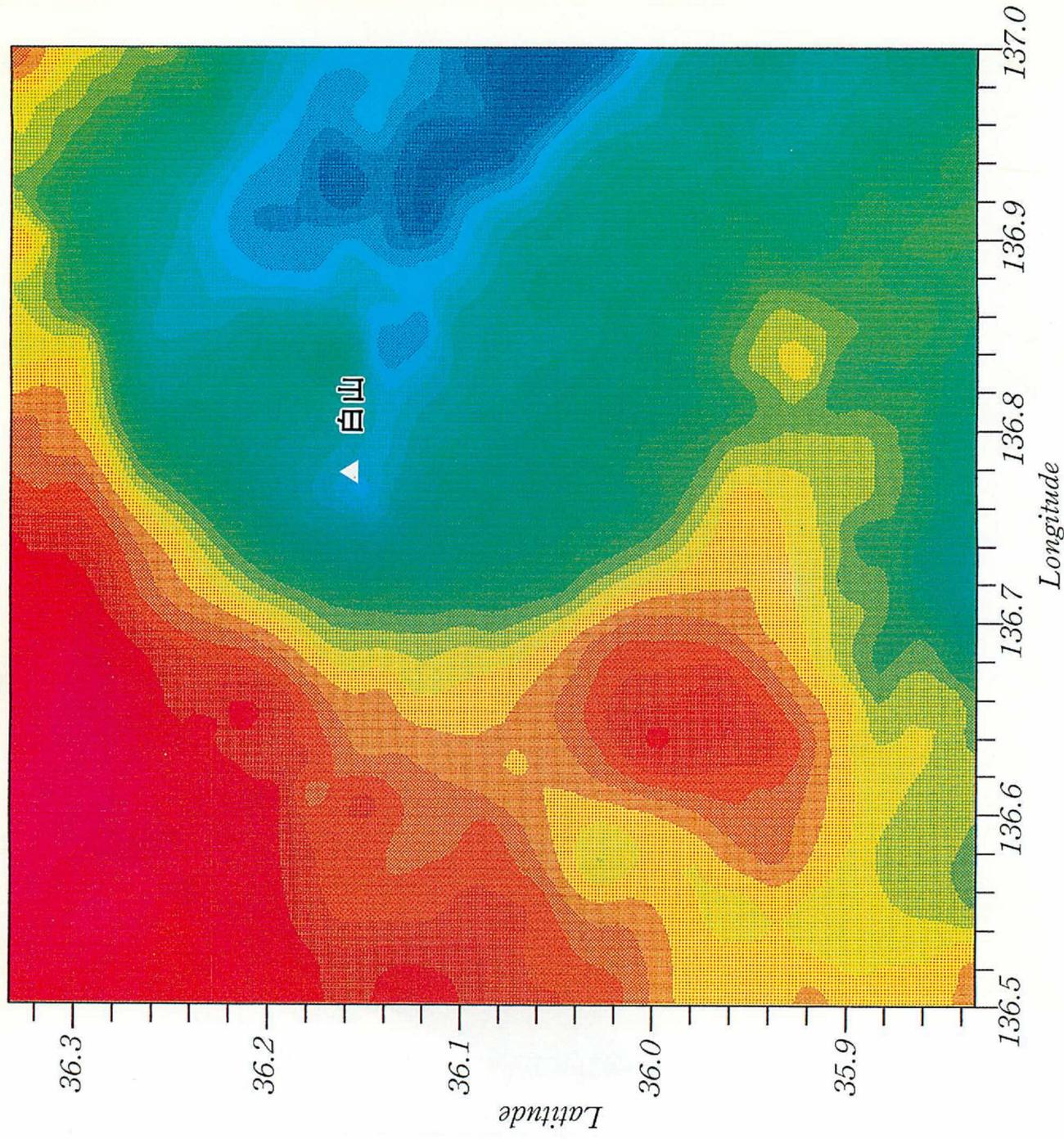
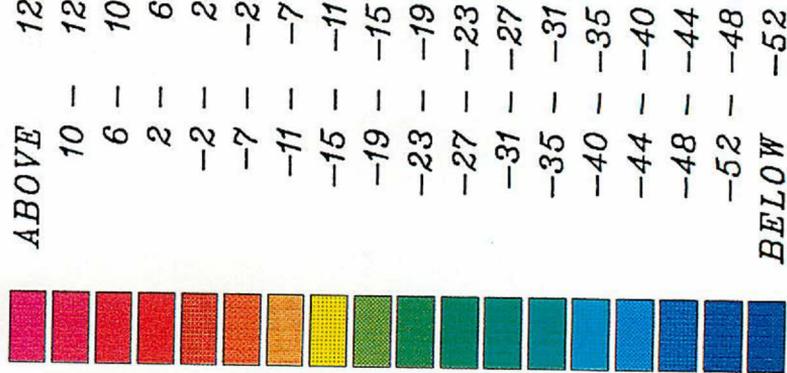
白山周辺の地形

約 500 m おきの標高数値データを使って白山周辺の地形を 3 次元に表示したもの。図がカバースる範囲は図 III-5 と同じである。視点は岐阜県側にあり、真南から東へ 70 度の方角から西、北西の方角を見ている。水平面から下へ 20 度の角度で見下ろしている。数値の単位はメートル。



白山周辺のブーゲ異常 (平面図)

図III-5と同様な図であるが、図III-5は人間が描いたものであるのにたいして、この図はコンピュータが描き、色をつけたものである。また、投影法の関係から図は南北に縮んだ形になっている。数値の単位はミリガル。



目 次

I.	はしがき	1
II.	白山火山の形成史概要	3
III.	白山周辺の重力異常	9
IV.	白山山頂部の磁気異常	25
V.	白山周辺の地震活動	36
VI.	白山火山の火山灰層	75
VII.	白山火山の歴史時代の活動	93
VIII.	昭和10年に白山に出現した“噴気孔”	108
IX.	白山火山の噴火活動の特徴	118
X.	白山火山の文献目録	120